

# 富士ゼロックス 複合機・プリンタ

Company Info 富士ゼロックス株式会社

URL <http://www.fujixerox.co.jp/>

## UT/400-iPDC との連携により IBM i からダイレクト印刷 IC カードによる多様な印刷セキュリティを提供

### Focus

- 1 IBM i 上に連携モジュールを搭載
- 2 オープン系複合機・プリンタで IBM i データを直接印刷
- 3 認証サーバーと連携する印刷セキュリティなどを提供

### IBM i 上に 連携モジュールを搭載

富士ゼロックスは、7月1日にアイエステクノポートとの間でパートナー契約を結んだ。これにより、アイエステクノポートのグラフィカルPDF帳票作成ツール「UT/400-iPDC」と富士

ゼロックス製複合機およびプリンタの組み合わせによるソリューション販売を行っていく。

また、これに先立ち、アイエステクノポートでは富士ゼロックスの協力の下、UT/400-iPDC と富士ゼロックス製複合機・プリンタを連携させる「UT/400ダイレクト印刷オプション」を開発している。このオプションは、

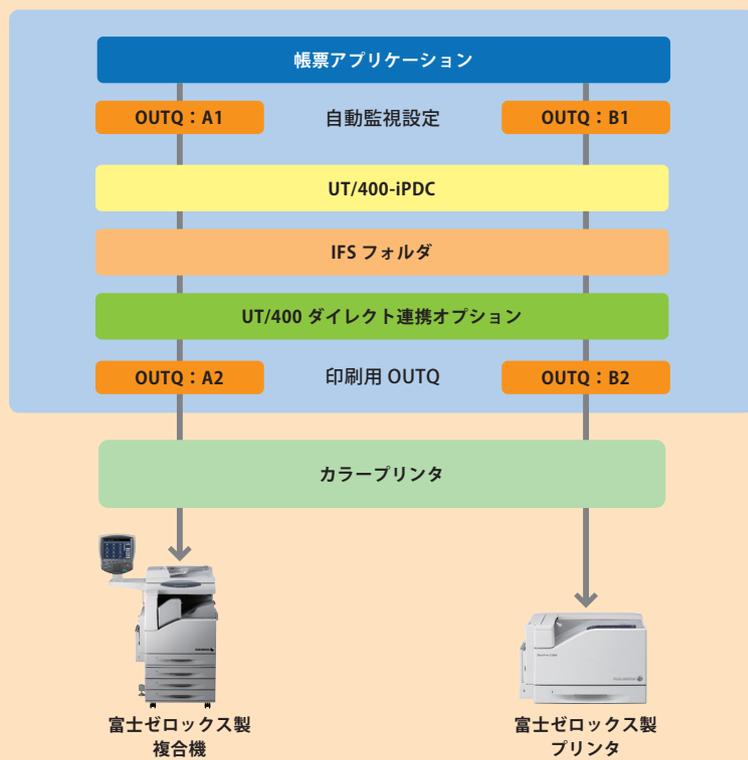
UT/400-iPDC が搭載される IBM i 機、または UT/400-iPDC のエンジンを搭載するアイエステクノポートのアプリケーションサーバー「iPDC Server」上に配置され、UT/400-iPDC 側で PDF が生成されるとそのデータを自動的に富士ゼロックス製複合機・プリンタへ送り、印刷可能とするものである。

これまで、IBM i 上の印刷データをオープン系の複合機やレーザープリンタなどへ出力するにはデバイス制御プログラムを搭載した PC サーバーなどを経由する必要があったが、UT/400ダイレクト印刷オプションにより IBM i からのダイレクトな印刷が可能になった。また両面印刷・トレイ指定印刷やステープルなどのプリンターオプション機能の制御も同時にできるよう実現している。

別の言い方をすると、富士ゼロックス製複合機やプリンタを IBM i のシステムプリンタとして活用できるということである。もちろん、富士ゼロックス製複合機やプリンタは IBM i 専用ではないので、Windows システムなどの出力データの印刷も可能で、共用プリンタとして利用できる。

なお、富士ゼロックス製複合機やプリンタにはさまざまなシリーズ・モデルがある。同社によると「ごく一部を

図表1 富士ゼロックス製複合機・プリンタと UT/400-iPDC の連携の仕組み



除き、大半の複合機・プリンタでUT/400-iPDCと連携可能」としているが、導入を検討する際は対応機種を確認いただきたい。

## 他社ソリューションとの多様な連携

富士ゼロックスではここ数年、複合機・プリンタと他社ソフトウェアとの連携ソリューションを強化してきている。今回のUT/400-iPDCもその一環だが、これまでの実績では、シトリックス・システムズ・ジャパンの「Citrix XenApp」(旧 Citrix Presentation Server) や複数の電子帳票ソリューションなどがある。

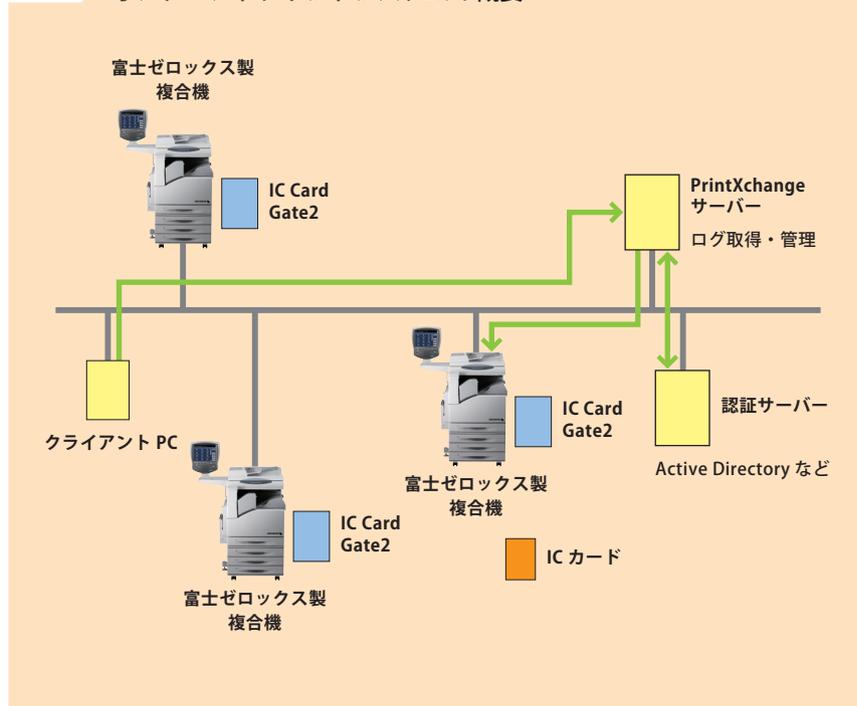
また、帯域制御機能を持つ独 Thin Print AG 社の「ThinPrint」との連携では、印刷データを数分の1～100分の1に圧縮してネットワーク送信し、ThinPrintのプリンタモジュールを搭載する富士ゼロックス製複合機・プリンタで解凍して印刷することができる。UT/400-iPDCとの連携も可能で、IBM iデータの分散サイトでの出力・印刷に効果を発揮するという。

## 基幹データ印刷のセキュリティ・ホールに対応

もう1つ、富士ゼロックスがここ数年強化しているのがセキュリティである。特に強調するのは、「部門で扱う業務系データの印刷セキュリティは普及しつつあるが、基幹系データの印刷については“セキュリティ・ホール”のような状況にある。弊社はこの点に着目し、対応機能の開発を進めてきた。基幹系データの印刷時のセキュリティを担保していることが弊社の大きな強みである」という点だ。

同社の印刷セキュリティは、複合機・プリンタと接続して使用する「IC Card Gate 2」が基本である。ICカードによる認証ソリューションで、代表的なシ

図表2 オンデマンドプリントシステムの概要



ステム例として「プライベートプリントシステム」と「オンデマンドプリントシステム」の2つがある。いずれもUT/400-iPDCとの連携が可能で、以下、UT/400-iPDCとの連携を例に機能を紹介する。

プライベートプリントシステムは、複合機・プリンタがUT/400-iPDCからの印刷データをハードディスクに蓄積する際に、UT/400ダイレクト連携オプションのデバイス制御モジュールに登録されていた、印刷命令を発行したユーザーの情報も一緒に蓄積する。そして、ユーザーがIC Card Gate 2デバイスにICカードをかざすことによってハードディスク内のユーザー情報とICカードとの照合が行われ、印刷が可能になる。

一方、オンデマンドプリントシステムのほうは、いったん「PrintXchange」というプリンティング統合管理ソフトウェアを搭載したサーバーにUT/400-iPDCからの印刷データが蓄積される。このPrintXchangeは、ネットワーク上のActive Directoryなどの認証サーバーと連携しており、ユーザーがICカードをIC Card Gate 2デバイスにかざ

すと、ICカードと認証サーバーの間で照合が行われ、指定の複合機・プリンタへ出力することができる。

また、オンデマンドであるので、特定の複合機・プリンタで処理が集中している場合は、任意の複合機・プリンタへ出力することが可能である。PrintXchangeに対応する認証サーバーはActive Directoryとも連携している。

冒頭でも触れたが、IBM i環境からオープン系の複合機・プリンタへダイレクトにPDFを印刷出力するソリューションは、現状では事実上、存在していない。今回の富士ゼロックス製複合機・プリンタとUT/400-iPDCとの連携により、IBM iの印刷ソリューションは新しい印刷スタイルを確立したといえるだろう。 i

## Product Information

- 発売：2009年7月
- 価格：複合機・プリンタは機種別。UT/400ダイレクト連携オプションは有償